



## 冬でも クーラー!?

天気予報を見ていて、予想気温が10度だからってナメてはいけない。とくに台北の冬は、このうすら寒い空気に湿度もたっぷり加わる。

2週間くらいずっと雨が降り続け、地形が盆地のため湿気が抜けにくいらしいが、湿度が90%超えなんでしょう。湿気があるからヒンヤリ感が増し、体感温度は実際の温度のマイナス3~4度。台湾の家庭はこの時期除湿器をフル稼働させている。

それなのに台湾人は冬でもクーラーをかける悪い癖があるって、レストランもタクシーも公共のスペースもキンキンに冷やす。こればかりは慣れないし、理解もできない。毎回タクシーに乗って「寒いからクーラーを消してください」と言ってみるが、素直に消してくれるタクシーの運転手はまず皆無。ガラスが曇るとか、息苦しいと文句を言われるか。もしくは、一見、風量をいじったふりして温度は全然上げてくれないか、のどれか。そのくせ自分(運転さん)はジャンパーを着込んでいる。なんだこれはと長年考えて察するに、身体は寒がっているらしいから鼻の穴から入る空気がヒンヤリしているのが好みらしい。

家庭でも外気温4度ですら息苦しいとかって窓を細く開けている。この手の息苦しがり屋が台湾にいるせいで、台北の冬は余計に寒くなっている。

このように冬は寒いが、当然のように暖房はない。宿泊したホテルの空調に暖房のスイッチを見つけて浮かれてても、押して出るのはスカーっという送風音。暖房機能はわざわざ取り去られているのか、またはコントローラー



が純正でないのか、暖房の文字があるのに互いにマッチしていないせいで我々をがっくりさせる。

注1  
「焚き火だ、焚き火だ、落ち葉焚き」など。ほかに千昌夫の「味噌汁の詩」や森進一の「襟裳岬」にも出てくる

お風呂に湯船がない家も多く、シャワーだけでもへっちゃらで暮らし、室内に入ってもどこに行ってもホッとできない。暖房がある室内でホッとするに、冬の温もりを感じて歌を作ったりする日本人(注1)からすると、だいぶ味気ない冬を過ごしている気分になる。湿度にメンタルな寒さも加わり、台湾の冬は日本より寒くてつらいと私は思う。日本より明らかに暖かい冬でありながら、モコモコのダウンを着ている台湾人。日本人はみな驚くけど、冬の間中、布団をかぶって寝る以外に暖まるところを知らないんだから、見逃してやってほしい。



## 台灣人は 汗知らず

では、夏はどうなのか。台湾に来たことある人ならわかるはずで、日差しの強さもさることながら、やっぱり強気のクーラーに悩まされる。そして、夏もまた湿気がすごい。冷えた室内から外に出るときに全身から水分がドバッと吹き出るのは、汗じゃなくて結露? めがねが曇るとかコップに水滴がつく、あれと同じことなのではと思ってしまう。それくらい外気は、一瞬で我々をズぶ濡れにさせるけど、人体の表面に水滴をつけて舌を出してヒーヒー言っているのは、観光中の日本人だけ。

ちなみに、現地の台湾人は毛穴がどうかしちゃったのか、顔にひと粒の水滴もなく、シラッと「暑い」とだけ口

から漏らす。不思議だったけど、気づいたら私もそうなっていた。長年住んでどうも台湾化が進んでしまい、最近は日本人のように水分を吹き出さなくなっている。

夏の期間は、5月頃から始まる。5、6、7、8、9、10月と半年に及んで暑い日が続き、果てしなく長い。台湾の初夏の特徴はスコール。毎日降って、1時間くらいでピタッと止む。午後2時に降り出すときもあれば、4時、5時に降るときもあるって、それが交通渋滞にも関わるから、時間が読めなくて困る。急に空が黒くなり、天の神様がバケツをひっくり返したかのようにどばっと降る。水なのに時間がたると痛くて、雨なのに傘も役に立たない。

どんなに天気がよい日でも突然来るので、女子なら折りたたみ傘を持ち歩いていて日傘兼雨傘とし、バイクならシートの下にカッパとバイクを拭くぞうきんを詰めている(注2)。台湾人は会社勤めでも夏はビーサン姿。日本人観光客もこの時期は台湾人を真似て、濡れてもすぐ渴くビーサンで観光することをお勧めします。台北に関しては、冬も夏も雨っぽいので、1年中ビーサンでいる人もいる。

夏の始まりが過ぎると、すぐ台風シーズンがやってくる。多い年には毎週のようにあって、颱風假という台風休暇があるから、みんなそんなに台風が嫌いじゃない。颱風假は「町中の適当につけた看板が飛んでくると危ないので、地方政府が発令する外出禁止令」と来たばかりのころに聞いて、私はそのまま信じているが、本当に看板のせいなのかは定かではない。木や車は転がっている。

外出禁止令は、簡単に前日に出され、次の日には台風



雨

注2  
雨でも台湾魂はバイクの使用を控えたりは絶対しない

# 雨

はとっくにどっかに行っちゃってなんの被害もないけど、お休みは返上されず、まるまるホリデーになることも多々。災害に発展する台風だったらそんなことも言ってられないけど、みんなこの休みを期待しているのは事実。こんな日でも、台湾魂がバイクに乗って風を切っている様子は見られる。

私は台北在住なので、いつも悩まされる湿気ネタはたくさんある。たとえば、1週間家を空けたら、買って1年未満のパソコンが立ち上がらなくなったり、靴にカビが生えやすかったりといろいろ。だけどこの湿気、肌にはよくて、今や日本の冬でひどい乾燥肌に悩んでいたことが懐かしくくらいだ。

台湾には、シワのない驚異的な肌の持ち主がたくさんいる。80、90のおばあちゃんが日本の40代並みのシワ量。シワ対策のために台北に住むのも手間とお金が浮く。私も肌のニーズを無視したもらい物の化粧水だけ生きている。日本では栽培が難しい蘭の花も、放置してもずっと楽しめる。

台湾南部の雨知らずの天気に憧れて、南部暮らしを夢見たりもするけど、台北は日本への直行便の飛行機がいっぱい飛んでいるし、冬には台湾のおいしい鍋をさらにおいしく食べることができる。台北も好きだ。

汗の量も野放しの肌も、すっかりこの気候に慣れて台湾人化し、冬に日本に帰ると室内で息苦しくなり、窓をうっすら開けたがる自分がいる。今となっては、鼻からヒンヤリが好みになっている。

